

授業科目名	動物内科看護学実習Ⅱ	科目コード	2301036		
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	2年
担当教員	若杉和歌子、猪野亜里沙				
	実務経験教員 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ) 実務経験内容 動物病院にて10年半動物の診療補助、看護に従事 現場での経験をもとに、事例を出しながら授業を行う				
開講時期	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 ・ 後期 ・ 通年 ・ 特別講義 ・ その他		授業コマ数	45 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必 須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト 1	書 名	動物看護実習テキスト			
	著 者	動物看護師養成専修学校教科書作成委員会			
	出版社	株式会社 インターズー			
使 用 テキスト 2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書	動物病院ナースのための臨床テクニック、犬と猫の臨床検査マスターブック VTの臨床検査ハンドブック、動物看護のための小動物内科学 動物病院検査技術ガイド				
授業形態	講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実習 ・ 実験 ・ その他 ( )				
<p>&lt;授業の目的・目標&gt; 1年次の復習に加え、動物病院での補助的看護作業を想定し、より実践的に実習を行い即戦力の人材となる人材育成を目標とする。</p>					
<p>&lt;授業の概要・授業方針&gt; 1年次の動物看護学、動物看護実習Ⅰの基礎的な部分の復習と、飼い主さん対応（受付、電話対応）の業務、病院内事務など応用の知識を習得させる。3年次のインターンシップ、就職活動に向けて、より実践的な内容を実習する。</p>					
<p>&lt;成績基準・評価基準&gt; 別紙①参照</p>					
<p>&lt;使用問題集・注意事項&gt;</p>					
<p>&lt;授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他&gt; 動物内科看護実習Ⅰ、</p>					

授業科目名		動物内科看護学実習Ⅱ
3H/ 回	授 業 内 容	備 考
1	飼い主さんからの質問に答える（会話形式で実践）	
2	飼い主さんからの質問に答える（会話形式で実践）	
3	注射器具の取り扱い（バイアル、アンプル）	
4	注射器具の取り扱い（薬用量の計算）	
5	注射器具の取り扱い（ワクチン作成）	
6	留置、輸液の準備（静脈内点滴）	
7	留置、輸液の準備（皮下点滴）	
8	保定（基本姿勢、採血時の保定）	
9	保定（頭部の保定、強制給餌の補助、投薬）	
10	保定（様々な検査、処置の時の保定）	
11	歯科処置（処置に使用する器具、ホームデンタルケアの指導）	
12	調剤（薬用量の計算、調剤、飼い主さんへの説明）	
13	受付の流れ（受付、カルテ作成、問診）	
14	電話対応（かけ方、受け方）	
15	実技試験	

別紙①【「動物形態機能学実習」「動物内科看護学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「動物外科看護学実習Ⅰ、Ⅱ」「動物臨床検査学実習Ⅱ」学習成果指標】

評価要素項目		実習目標	学習成果評価基準				
			4	3	2	1	
知識と理解	筆記試験100点	実習を行う上で、使用する器具の名称や使い方、処置の準備に必要なものや準備の方法など、理論的なことをきちんと理解している。	筆記試験80点以上	筆記試験70～79点	筆記試験60～69点	筆記試験59点以下	
汎用的技能	自己評価の内容	実習を振り返り、身だしなみ、実習目標の達成、実習内容の理解、積極的な取り組みなどについて、客観的な自己評価を行っている。	自己評価が客観的で正しく行われており、担当教員による評価と相違ない。	自己評価は正しく行われているが、担当教員による評価とやや相違がある。	自己評価がやや主観的である。	実習後の自己評価はいつも同じで、担当教員による評価と大きく離れている。	
職務上の技能	専門実践技能	実技試験60点	学期末に行う実技試験において、手順や器具の扱い方が実習で指導した通りに行われており、設定時間内に終了できる。	実技試験48点以上	実技試験42～47点	実技試験36～41点	実技試験35点以下
	対人技能	実習中の態度、身だしなみ	実習中は教員の指導を素直に聞き、実践できる。教員や他の学生に対する言葉遣いも適切で、実習にふさわしい身だしなみができている。	実習中に指導されたことは素直に実践し、態度・言動が適切である。常に実習にふさわしい身だしなみができている。	指導されたことは素直に実践している。	教員の指示どおりに行わない面があり、言動面も指導を要する。	教員の指導を素直に聞かず、反抗的な態度をとることがある。また、実習着を忘れたり、身だしなみも不適切である。
	分析技能	レポートの提出状況、内容	実習後のレポートに、実践した内容だけでなく反省や改善点、問題点がわかりやすくまとめられている。また、期限内に遅れることなく提出できる。	実習で実践した内容が細かく丁寧にまとめられており、今後の自分の課題が分析されたレポートである。毎回、遅れることなく提出している。	レポートは提出されているが、内容や今後の課題がやや不明瞭である。	期限内に遅れることが多いが、提出はされている。	レポートをほとんど提出しない。
	管理・指導技能	積極性	様々なことに興味を持ち、意欲的、積極的に実習に取り組んでいる。また、わからない学生にも優しく教えることができる。	積極的に実習に取り組み、疑問に思ったことはすぐに質問し解決につなげることができている。また、他の学生にも優しく教えることができる。	真面目に取り組んではいるが、積極的に動けない面がある。学生同士で教える際は、丁寧に説明できている。	やや受け身の態度で実習に取り組んでいる。他の学生への説明もやや不足している。	実習中は常に受け身で、自分から実践しようとしにくい。うまくできないことがあっても、自ら練習しようとしにくい。
自律性と責任感	責任感、行動力	動物看護師になることを目標として、責任感をもって実習に取り組み、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にしている。	言われたことは最後まで責任を持ってやり遂げ、動物看護師になることを目標として、自己の成長を意識しながら、自分で考え行動できている。	動物看護師になることを目標として、自分で考えて行動しようとする姿勢は見られる。	動物看護師になることを目標とはしているが、自分の考えで行動できないことがある。	自己の職業観が曖昧なため、責任感や自律性に欠けた行動が頻繁にみられる。	
倫理観とプロ意識	職業倫理の理解	職業人としての社会的なマナーや言動を意識しながら行動できる。	動物看護の倫理綱領を意識しながら、実習における目的・目標を念頭に、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	一般的な社会的・職業的倫理は理解できている。	社会人になるという意識はあるが、社会的・職業的倫理に対する関心が低いいため、やや理解不足である。	社会人になるという意識が低く、社会的・職業的倫理に対する関心が低い。	

※評価方法

上記8項目の基準の合計点数により、以下のように評価する。

合計32点満点中 25～32点が優、22～24点が良、19～21点が可、18点以下が不可

不可の場合は、著しく評価が低い項目に合わせた課題を与え、提出されたその内容が適切な場合は可の評価を与える。